

恵庭市にある北海道文教大に今春、地域創造研究センターが誕生した。市や民間と連携して人口減時代に地域が抱える課題解決を図り、具体的なモデルを提言する。

センター長に就任したのは北大公共政策大学院客員教授の小磯修二さん(75)。旧北海道開発庁、国土庁で地域政策づくりに携わり、釧路公立大では地域経済研究セン



今日の話題

大学で政策発信

小磯さんは総合開発計画の策定や北方圏交流など実績華やかな印象があるが、地道な仕事も多い。釧路公立大時代には市と生活保

護世帯の自立支援を共同研究。ボランティアや就労体験を通じ社会参加を後押しする「釧路モデル」につながり全国的に注目された。

研究を支えたのは、テーマごとに広く専門家や関係者を集め解決

ターを立ち上げ学長も務めた。

今回の発足のきっかけは2年前

の恵庭市制50周年フォーラムだ。

この場で提唱された自然や外国人、子どもたちとの「共生のまちづくり」を指す政策発信を担う。

フォーラムに参加した小磯さんは当初アドバイザー的存在だったが周囲に請われ責任者に。「これまでの経験を次世代に受け継ぐ役目なら」と引き受けた。

を探る手法だ。個々の知見が「集団知」「総合知」へ積み上がる。

今回も健康福祉や食育といった道文教大の専門分野にとらわれず、自治体や民間、市民から客員研究員を募ることも検討する。

次世代半導体量産を図るラピダス(東京)が隣の千歳市に進出し外国人技術者との共生も大きなテーマになる。大学発の政策提言に期待したい。(磯田 佳孝)